

アセットマネジメント部門

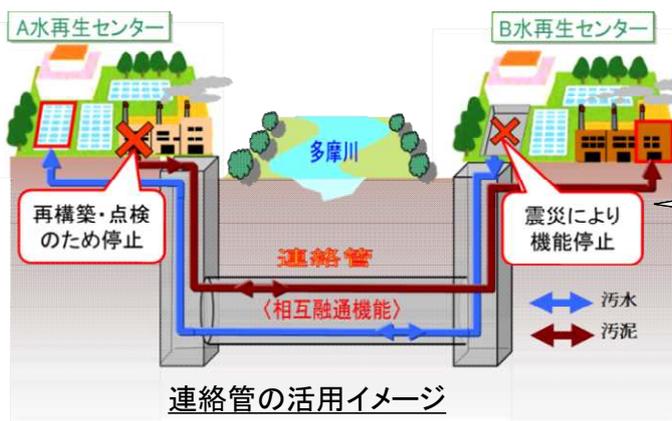
応募事例名

連絡管を活用した多摩地域の安定的な下水処理と 効率的な事業運営

応募団体名) 東京都

応募事例の概要

平成27年度末までに、多摩川を挟んで向い合う6つの水再生センターを結ぶ連絡管3本が全て完成しました。



多摩川を挟んで向い合う6つの水再生センター

連絡管の活用事例

建設費や維持管理費を縮減

相互融通機能を活用し、汚泥焼却炉を集約化・大型化することで更新台数を削減
⇒南多摩水再生センター等で焼却炉の再構築時に集約化・大型化を実施

施設の再構築や維持管理を効率化

北多摩一号水再生センターの水処理施設の設備再構築により、工事期間中に低下する処理能力を補完
⇒南多摩水再生センターへ汚水を送水し、処理機能を確保

遠方監視制御による維持管理の効率化

連絡管内に敷設した光ファイバーを活用し、遠方監視制御により2センターを1つのシステムとして運用
⇒職員を一方のセンターに集約して運転要員等を削減

PRポイント

対岸の2センターを一つのシステムとして捉え、施設の再構築時、補修や定期点検時などにおいても、汚水や汚泥を相互融通することにより、**下水処理の安定性の向上**や、**下水道事業の効率化**が図られます。また、東日本大震災では多摩川上流水再生センターの施設が一部停止しましたが、汚泥を対岸の水再生センターへ送ることで下水処理を安定的に継続するなど、**震災時におけるバックアップ機能**も果たしています。